

日々変革する言語

英語圏内では1960年代後半から言語における性差別が注目を集めてきている。性が不確定の先行詞（*anyone*、*someone*など）の場合、総称的heしか「正しくない」と文法書や教科書が指示していたので、heが非性差別語変革者から大きな注目を浴びてきた。現在、総称的heは性差別語で避けるべきだというコンセンサスが形成されてきている。

それ故に色々の代替案（he and she、she and he、s/heなど）が提供されてきているが、実際には性差別代名詞問題の解決方法である通性代名詞theyが長年使われてきている。

この「総称的」で「単数」であるtheyは古英語時代（449年～1066年頃）の作品に出ており、初期近代英語（およそ1500年～1800年）までheと同時に総称的に使われていたと言われている。「I asked a friend, and they said OK」,「Everybody has their weakness」のような文が自然に使われている。実際には、チョーサー、シェイクスピア、ジェーン・オースティン他の英文学の名作家がこの単数theyを使っていた。

この普及された言葉遣いがなぜ汚名を着せられるようになったか。主犯は規範文法家である。1794年のLindley Murrayの英文法書では、theyが単数の不定名詞を意味することは誤りであると規定した。つまり、「Everybody has his weakness」のような文しか正しくないとして学校で教えるようになった。政治家も一口乗った。1850年の英国議会はすべての議会制定法では、男性を意味する語は女性を含むと見なすという法案まで出した。

自覚があるのかどうかは知らないが、母語話者誰もが単数theyを使っても現在に至るまで単数theyにはレッテルが貼られ、「無教養」と思われる場合もある。しかし、その使用を禁止する文法学者、評論家などでさえ使っている。例えば、アメリカ有力雑誌The New Yorkerの校正者が単数theyの使用は間違いだと主張する本にさえ次の文がある：「Nobody wanted to think they were not essential」。

2015年には、アメリカ有力紙ワシントンポストの文章作法は英語の3人称単数通性代名詞問題のただ1つの賢明な解決策が単数theyであると主張し、その使用を受け入れた。また、アメリカ方言学会は通性代名詞である単数theyを2015年の最優秀単語に選んだ。

英語圏内の言語変革は日本の英語教育にはどのような影響を及ぼすだろうか。

聖学院大学 人文学部 欧米文化学科長・教授 バーガー デービッド